

平成26年度全国学力・学習状況調査が4月22日に実施され、大東市の全公立小学校の6年生1,148名、中学校の3年生1,117名が調査に参加しました。

今回の調査は、平成25年度に引き続き、全国の公立小中学校の全校が参加する調査でした。

調査内容は、国語及び算数・数学の知識に関するA問題と、活用に関するB問題による「学力調査」、児童・生徒に学校生活や家庭生活の様子をたずねた「児童・生徒質問紙」、各学校の取り組み状況や教職員の意識についてたずねた「学校質問紙」の3つからなっています。

教育委員会では、分析した調査結果を学校での「授業改善の工夫」および児童生徒の「学習意欲と学力の向上・基本的生活習慣の定着」に役立てるとともに市の教育施策に反映させてまいります。

問教育政策室 ☎870・9643

小学校 学力調査の結果より

国語は、A問題での漢字の書き取りで、正答率が全国を上回る設問がありました。しかし、故事成語の意味と理解や、情景描写を捉えることなどについては課題があります。B問題では「話すこと・聞くこと」に関する設問では、できているものがありました。しかし、「書くこと」に大きな課題があります。

算数は、A問題では、「数と計算」の設問で、正答率が全国を上回る設問がありました。また、無解答率も全国とほぼ差がありません。しかし、「量と測定」「数量関係」については課題があります。B問題は選択式で解答する設問では全国に近いものがありました。B問題は選択式で解答する設問では全国に近いものがありました。B問題は選択式で解答する設問では全国に近いものがありました。B問題は選択式で解答する設問では全国に近いものがありました。

中学校 学力調査の結果より

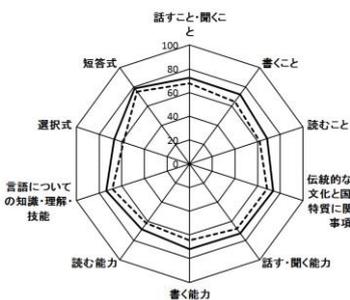
国語は、A問題で「読むこと」において全国と差が少なく、登場人物の心情理解で正答率が全国を上回る設問もありました。しかし「話すこと・聞くこと」に課題があります。B問題では選択式の設問で無解答率が低く、解答の意欲がみられました。しかし、「書くこと」については、大きな課題があります。

数学は、A問題の分数のわり算で正答率が全国を上回る設問もありました。しかし、「関数」や「不等式」については、課題があります。B問題では選択式で解答する設問では全国に近いものもありましたが、全体的に全ての領域において課題があり、記述式で解答する設問には特に大きな課題があります。

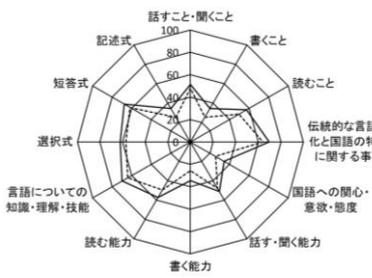
<平均正答率>

..... 大東市
—— 全国

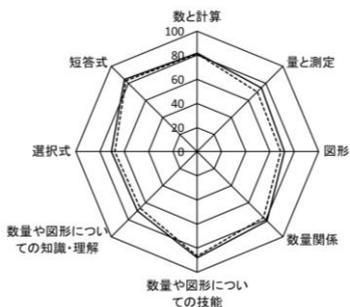
国語A
大東市：67.3%



国語B
大東市：49.0%



算数A
大東市：75.8%



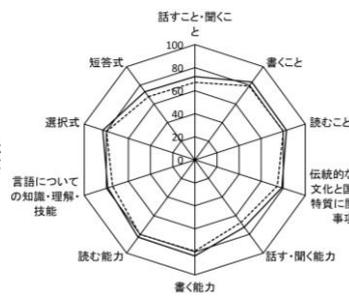
算数B
大東市：52.5%



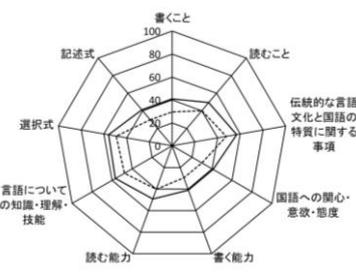
<平均正答率>

..... 大東市
—— 全国

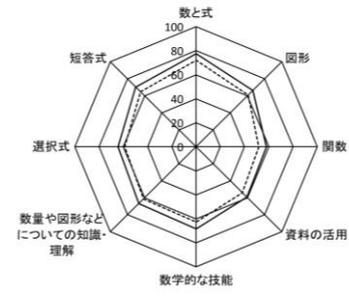
国語A
大東市：75.4%



国語B
大東市：42.8%



数学A
大東市：61.8%



数学B
大東市：53.2%

